

温故知新

静岡県立中央図書館所蔵の貴重書紹介（3） 平成 12 年 6 月 15 日

明治初期の啓蒙書（その3）

西国立志編 (159/21, 159/107)

『西国立志編』はイギリスのスマイルズ (Samuel Smiles) の『自助論』(“Self-Help”) を中村正直 (敬宇) (1832~1891) が静岡の地で翻訳、刊行したものです。

幕府の教育機関である昌平黌の教授を務めていた中村正直は、1866 (慶応2) 年から約1年半、幕府の派遣した留学生の取締役としてロンドンに滞在しました。帰国の折り、友人のフリーランドから贈られたのが『自助論』でした。帰国の船中でこの本を読んだ正直は「国家の盛衰は国民の如何による。国民が各自、自分の力で栄える自由が保証されていて、栄えようと努力する国民の多い国こそよい国である」というスマイルズの「自助の精神」に深い感銘を受けました。

維新後、正直は徳川家達の後を追って駿府に移り、静岡学問所の教授に任命されました。そこで多くの青年たちと接するうちに『自助論』の翻訳を思い立ったのでした。時代の大変革を前にして自らの生き方を模索している青年たちにとって、スマイルズの「自助」の精神が彼らの将来を指し示す指針となるはずだ、と考えたからでした。10ヶ月余りをかけて翻訳を完成させた正直は、静岡藩の援助を得て1870 (明治3) 年から翌年7月にかけて『西国立志編』を出版しました。

全体は13編324章 (全11冊) からなり、各章ごとに独立した短い伝記 (例えば種痘のジェンナー、桜の木のワシントン、蒸気機関のワットなど) が集められています。そこでは「人は志を立てて努力すればかならず成功する」ということが繰り返し説かれています。「勤勉」と「努力」がこの本を貫くキーワードです。階級制度の壁が打ち破られ、能力があって努力すれば出世できる、という時代がやってきた頃でした。『西国立志編』はその時流に乗り、明治期を通じて100万部以上発行されたと言われています。

当館では明治3年及び4年刊行 (いずれも発行地は静岡) のものを所蔵していますが、残念ながら両方とも一部を欠いており完全なものではありません。また、翻訳の元になったスマイルズの“Self-Help”の複製本 (G159/S) も所蔵しています。

【参考資料】

中村敬宇 (281.08/101-135)

西国立志編 (159/135)